

P A M P H L E T

DABERYOKU



だべ力とは？



だべ力とは、

『だべる力』のこと。

**他者とだべりながら言葉や内容によって
居心地よい空間を生み出す力こと**

だべりケーションとは？

具体的な活用の術として

合わせてだべりケーションを推奨。

**だべりケーションは、日常の何気ない出来
事を目的なく話す術のことを指す。**

**コミュニケーションや会話など、イメージと
しての話す行為を払拭し、気楽さという共
通認識から話せる点で評価されている。**

だべ力の指針

基本的あり方 今“ある”に感謝する

mission

人生を経営するすべての人へ
“再認識”を提供する

vision

世の中に笑顔とつながりを

value

愛を第一に ご縁をつなぐ
共につくる 道は拓く

"だべりケーション"に関する論文

-論文-

だべりケーションにおける自力解決の有効性に関する研究

Research on effectiveness of problem solving "Daberication"

1 はじめに

雑談研究に関する報告書は近年、有効性が証明され、注目されてつつある。雑談対話は人間の会話の6割を占めるという調査結果もある【1】。奥原と伊藤による研究【2】によると、学生同士による問題解決型のグループ学習においては、頻繁に議論中に雑談が行われ、雑談が多いグループの方が満足度が高いことがわかっている。さらには1996年の尾崎の論文や2007年の藤本の論文で、雑談はコミュニケーションを取る上で、相手との信頼関係や思考の把握に利用されていることも報告されている【3】。しかし、雑談は研究分野で評価されていたとしても日常生活において意識的に取り入れられていることは少ない。その原因は、①効率化を求めた社会風潮 ②雑談という用語の印象だと考える。

そこで本研究は昭和から大正にかけて流行した言葉“だべる”に着目し、雑談の有効性を生かす社会に受け入れやすい言葉を創造し、その価値を明らかにしていく。

2 ことばの選定

本研究では、“だべる”という用語からヒントを得た“だべりケーション”(石山提唱)を取り上げる。そもそも“だべる”とは、駄弁ると書く。無駄を述べる・話すという意味となる。その点で、雑談と似た意味を想像する人も少なくない。無駄を削減し、効率化を追及していき資本主義社会においては、排除的存在として見られがちであり、駄は無駄としての活用が一般的であるため、負の印象が強い。

次に、“だべる”という言葉は聞いたことはあるが、表記までの認知は高くはないようだ。数名の聞き取りによりわかったことは、平成世代においては駄弁るを知らない人がいるということだ。また、面白い研究があることも調査でわかった。米国では言葉に関する研究が進み、「phonetic symbolism」(音声象徴)と呼ばれる分野がある。音のイメージがネーミングやブランドに与える影響についての研究だ。その研究によると、音声象徴では有声破裂音の「B、D、G」の入った(とくに語頭)ネーミングがよいとされ、多くのブランドで採用されていることがわかっている。具体的には、[ガンダム] [アディダス] [ゴジラ] [ドラゴンボール]が該当する。

以上のことから、“駄弁る”や“雑談”の表記印象は負のイメージを与えがちだが、“だべる”そのものの漢字表記の認知度は低く、有声破裂音による効果でインパクトを与えられる要素をもっていることから“だべる”という表記が社会への浸透言葉として取り上げる価値があると判断した。

3 ことばの定義

“だべる”言葉において、研究を進める際に、課題として挙がるのが認知度の低さである。認知度を高める方法としては、インターネットやSNSでの宣伝・広告が最も効果的であるが、多額の資金を投じる必要があることから本研究においては現実的ではない。一般に受け入れられるには、流行語としての特性があるかどうかにかかっているだろう。そこで参考になるのが米川の流行語研究

【4】で述べられた5つの観点(新語・流行語の発生の時期、理由、流行源、生産性・創造性、普及性)である。特に流行の発生時期に関して外的要因と内的要因が存在する。例として『くまもん』は、マスコットキャラクターの活動に伴って認知が拡大した例であり、外的要因となる。一方で内的要因は、新奇性を求めた結果、新たな表現が生じ流行する場合である。流行語に関する論文を発表した吉田【5】は具体的に「ありがとうございます」を意味する「あぎーす」は過度に省略された事例であるし、さらに、2015年のJK・JC流行語大賞に選ばれた「YDK(ワイディーケー)」は「やればできる子」の頭文字をとってアルファベット表記で表現をしている。いずれも標準からの逸脱となっていると言っている。

“だべる”言葉そのものをより一般的に受け入れやすい言葉にするためには、内的要因の作用を利用することが妥当だと判断し、すでに普及している言葉であり、様々な研究により、効果が立証されていないが、悩む人が一定数いる言葉として“コミュニケーション”を採用し、内的要因的要素を取り入れた“だべりケーション”を提唱するに至った。そして、その意味を『日常の何気ない出来事を目的なく話す術のこと』とすることで、だべる印象を保持しつつ、コミュニケーションの本質を損なわないように配慮した。次に、だべりケーションで目指すことは、だべることを通して居心地のよい空間をつくることである。これは、コミュニケーションを取ることに苦手意識をもつ人に配慮した形となる。会話の方向性や会話の質を求める等、コミュニケーション力には、会話そのものに焦点が当てられる場合が多い。一方でだべりケーションでは、質などには拘らず、その場の空間をつくる環境に焦点を当てた点に違いがある。そして、だべることを通して居心地のよい空間をつくる力のことをだべ力と定義づけた。ただし、コミュニケーションを研究・分析する際に課題となるのがコミュニケーションには、話す手法を求める側面と、内容の質を求める側面の二面性が重なり合って存在する点である。本研究のだべりケーションで重視されるは、空間の環境づくりのためのスキルと、俯瞰して自らを見るメタ認知の要素にその価

※2023年1月に発刊予定

COPYRIGHT 2022 © だべ力

HPでだべ力を発信中

新しい会話のカタチ『だべリケーション』

職場から離れたところ、孤独感がある。人とのコミュニケーションがうまくいかなくて不安を抱く傾向が示されている。ところが、だべりという来自ら発生のな話を意図的に時間を設けることで、仕事環境内でもやりとりが生まれ、従業員の心理的安心感を得られると見ています。



職場から離れたところ、孤独感がある。人とのコミュニケーションがうまくいかなくて不安を抱く傾向が示されている。ところが、だべりという来自ら発生のな話を意図的に時間を設けることで、仕事環境内でもやりとりが生まれ、従業員の心理的安心感を得られると見ています。

社員同士が仲良くないというだけなら企業側はメッセージを送るにいくらでもありますが、チームの生産性が上がるという点で、無視できないのではという方が、だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

P3

チームの生産性が上がる！

新しい会話のカタチ『だべリケーション』

石山 空来 (いしやま あき) さん

なにげない会話から問題解決のヒントやひらめきを得られることに着目したことがきっかけで「だべり」という言葉に着目し、他者とだべりながら言葉や内容によって居心地の良い空間を生み出す力を「だべり力」と定義し、提唱。初対面でも気軽に話しかけられる新しい会話のカタチ『だべリケーション』などの体系化を進めている。現在、企業や講座、教育現場にも普及のため日々、進捗している。



だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

だべりという言葉を重んじた日本人、大切にされていますね。少し日本の文化に比べて、海外では、言葉遊びが中心で、かわきつ、それによって、コミュニケーションが、一般的にも、盛況な状態を

P2

『だべり』とは何か？

私には、それ、変化の激しい社会を生き抜いていかなければなりません。そのために必要な力とは何でしょうか。二十五年以上、話すことを仕事としてきた私の答えは、『だべり』を身に付けること。ある日の会話中、なにげない言葉の中に、アイデアやヒントがたまると感じるようになりました。その時、その瞬間を思い返してみても心地よい空間、しなやかに、肩の力を抜いて気軽に話せる感覚、これこそ、アイデアが出る空間、と思ったのです。この空間を、誰も創れたら会議も人との関わりももっと充実し、皆が豊かになれる。この空間づくりを、一言表現する、肩の力を抜いていくとある言葉に出会いました。それが、『だべり』です。だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。

同士の関係性を築くという行為がある、聞いた覚えがあります。日本の神道では、他者との関係性は、型（間合）で紡いでいくのです。型は神社での習わし、参拝方法や所作であり、間合は人と人、他者との距離感を掴むことが必要とわらわります。『道』とくわ花道楽、剣道、柔道などの日本文化は、全型（間合）の要素が組み込まれています。もちろん、全てにわたって必要があるわけはありますが、代表的なものとして、だべりという言葉を挙げたいです。だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。

だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。

だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。

だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。

だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。だべりとは、無駄話をすべという意味で解釈されますが、だべりという言葉には無限の可能性が詰まっています。

Frisbee digital 2022年 10月

『だべり』とは何か？
日本の習わしとの共通点とは？



石山 空来 (いしやま あき) さん
なにげない会話から問題解決のヒントやひらめきを得られることに着目したことがきっかけで「だべり」という言葉に着目し、他者とだべりながら言葉や内容によって居心地の良い空間を生み出す力を「だべり力」と定義し、提唱。初対面でも気軽に話しかけられる新しい会話のカタチ『だべリケーション』などの体系化を進めている。現在、企業や講座、教育現場にも普及のため日々、進捗している。

179

178

ご賛同いただいています



夢を叶える英語と日本語講師

片岡 かなえ 様

だべカ。それは日本だけでなく、海外でも重要な力です。今回のだべカは話の内容ではなく、雰囲気、内面から出てしまうみえないもの、という場に焦点を当てた点がとくにおもしろく、なりよりそこには日本の住み寂びにも通じる日本人の精神が土台にあるように思うのです。だべカだけでなく、心理学や脳科学、それに日本の文化などの話も興味深いです。メルマガへの登録で情報が得られるので気になった方はぜひご登録されてみてはいかがでしょうか。



KITAHARAメソッド代表

北原 美穂 様

石山さんの魅力はお友達が多いところです。全国にさまざまなお友達がいて、話も面白い。話し方の講師はスキルを教える人が多い傾向にありますが、石山さんからは、あり方を学べます。私も様々な研修に参加した中で思う事は、講師の人はとても重要な要素だと思います。伝わるかどうかは、誰が話すか。石山空来さんは、伝えるプロ。面白く話しながら重要な要素はきちんと抑える。そんな方から学ぶことができれば、想像以上に多くの学びが得られると思います。



ファイナンシャルプランナー

浅井 理江 様

お客様と初めて話すとき、最初から仕事の話に入る人はいませんよね。まずは、気分や最近の出来事など、たわいのない会話を意識するでしょう。そんな中、知った「だべカ」。これが広まれば「だべリケーション」で世の中明るく、円滑！提唱者の空来さんは、「だべカ」抜群で、彼女が口を開く(だべる)と一気に雰囲気も明るく楽しめる場になります。お店でコーヒーが運ばれてきたら店員さんと話し出し、会計に行けばまたその店員さんと自然に「だべる」。あんなに自然に周りと一緒に繋がれたらいいな！と思います。私が思う「だべカ」とは、「言葉で周りと緩やかに繋がっていき能力」かな？話し下手でも人見知りでも「だべる」ことで周りと繋がることができる！コミュニケーション能力を上げる、なんて難しいことじゃなく、だべリケーションでゆるゆると人と繋がってみませんか？



珈琲オーダー焙煎

まめとも 様

コーヒーの焙煎と販売を行なっている中、お客様との時間は大切なひととき。
空来さんの記事の中で、油売りの話がありました。油を注ぐ間にお客さんと話していた風景からできたことわざが『油を売る』だと。でもこれはお客さんとたわいもない話をしながら退屈させない工夫だというんです。
このような一つ一つのエピソードが面白い！本を読むくらいならメルマガに登録してそれを活用するだけでも有益だと思います。空来さんからぜひ学んでみてください。話だけでなく、空来さんのお人柄もぜひ味わっていただきたい魅力の一つです！



株式会社ココロック 代表取締役

辻 真一 様

お客様に商品を手に取っていただき、ご満足して買っていただくこと。
そのために一人一人にあった提案が必要です。そして、その提案をするまでには相手の本音が出る環境にすることも経営の大事な要素です。空来さんのだべリケーションは心の距離を近づけるのに最適なツール。だべカという意味を理解し、意識することでお仕事の成果にもつながると考えたと取り入れる価値のあるものだと思います。

他、多数...

COPYRIGHT 2022 © だべカ

だべ力は様々な場で活用可能



景色を前に



社内会議で



ビールと共に



セミナーにも



商談で



お客様と

代表 石山 空来

なにげない会話から問題解決のヒントやひらめきが得られることに着目したことがきっかけで『だべる』ことの重要性に気づく。他者とだべりながら言葉や内容によって居心地良い空間を生み出す力を『だべ力』と定義し、提唱。初対面でも気軽にどんどん話したくなる新しい会話のカタチ『だべリケーション』などの体系化を進めている。現在、企業や講座、教育現場にも普及のため日々、邁進している。





だべカ公式HP